

会 報 《第432号》

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



令和3年11月1日

目 次

I 第 495 回月例会

「日本文化の歴史的特質と現代」 ～日本文化の源流としての中国文化～

佛教大学名誉教授 清 水 稔 氏・・・2～6 頁

II 会員寄稿

「 杭瀬地域のまちなか再生協議会 」

宮崎建設（株）代表取締役社長 宮崎 健一 氏（当会理事） 6～9 頁

III 令和 3 年度第 3 回理事会・・・・・・・・・・10 頁

IV 第 162 回研修交流会・・・・・・・・・・10 頁

V お知らせ 行事予定・・・・・・・・・・10 頁

VI 広報コーナー 兵庫県住宅再建共済制度、・・・・・・・・11 頁



I 第495回月例会

「日本文化の歴史的特質と現代」～日本文化の源流としての中国文化～

佛教大学名誉教授 清水 稔 氏

【会 長 挨 拶】



皆さん、こんにちは。

9月30日をもって緊急事態宣言が解除され、明るい兆しを受けて、10月を迎えることが出来ました。会員の皆様には、年度後半に移り、業務多忙にも関わりませず兵庫県建築会の月例会にご参加いただき有り難うございます。

ご承知の通り、兵庫県のコロナ感染者数は急減しており、これまでの皆様の我慢とご苦勞に敬意を表したいと思います。また、第6波阻止のためにこれまで以上に対策を講じ、一日も早く日常を取り戻せることを祈念いたしております。

建築会の事業も下期に移りましたので、上期について報告させていただきます。緊急事態宣言等により当会事業も思うように出来ず、大変苦勞を強いられました。定時総会は人数を制限した形での開催でありましたし、月例会は4月、7月、9月と3回の開催を何とか出来ました。この間会員の皆様には、ご心配やご迷惑をお掛けしましたことを、この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

下期の事業につきましては、今までのコロナ対策の経験を活かし、慎重に進めて参りますので、改めまして、会員の皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

本日の例会は、日本文化のルーツから、日本独自の文化として発展した時代、そして現代へと繋がる日常生活の種々ことが、中国文化と深い関係にあることなど、大変興味深いお話を伺えることと思っております。

清水先生よろしくお願いします。

【講 演 内 容】



1 はじめに

私たちは日本語の素性を知らないで、日頃使っていますが、私は「言葉」は文化だと思っていますし、言葉は大切にしなければならない文化だと思っています。現代では言葉が失われてきており、とりわけ漢字が使われなくなっています。

また、私たちは知らず知らずのうちに今使っている言葉が本来の意味を知らないで使っているという錯覚に陥ることも多いと思います。例えば、「風呂敷」という言葉ですが、本来は蒸し風呂の床に敷くものですし、江戸時代は風呂屋で衣類を置いたり、包むものとして使ったことから、今では袋の代用品として使っています。

さらに、「百姓」という言葉は農民と理解されていると思いますが、百の姓つまり「色々な人」「民(たみ)」という意味なのです。

このように言葉というものには歴史があるということです。本日は、日本文化と中国文化の繋がりを言葉と行事という観点からお話し、それが私たちの生活のなかで生きていることを認識していただければと思います。

日本語は外国の言葉と比べて、豊かな感性を持っています。日本の文学を翻訳して理解させるには、実は日本語の微妙なニュアンスを正しく伝えられないという難しさがあります。

日本語は元々話し言葉はありましたが、書き言葉はなかったのです。それで中国から入ってきた漢字を話し言葉に当てはめたわけです。例えば古事記、万葉集等はすべて漢字で書かれています。

日本人は漢字の音と訓を創意工夫を重ねて書き言葉に置き換えていきました。さらに安土桃山時代に来日した宣教師から入ってきた南蛮文化をカタカナを使って表現しました。江戸時代には朱子学という中国の学問が日本の思想体系の一端を担いました。

そして、幕末にかけて蘭学を通じてヨーロッパの文化を学びました。この時代は鎖国でしたが、蘭学塾が全国津々浦々にあり、外来文化を受容していたのです。

このように日本文化は歴史的に色々な外来文化をスポンジのように吸収しながら形成されたもののだと思っています。



2 日本文化の源流を言葉から考える

(1) 中国の漢字（漢文）を受け入れたこと

日本の言葉は中国の漢字、漢文を受け入れたもので、それを通して中国文化そのものを吸収しています。最近では中国を嫌う風潮がありますが、私たち日本人は、中国文化の恩恵をどこかで受けてきたことを認識しておく必要があります。

古より中国の言葉、漢民族の言葉を学んできたことが、その後の日本文化の基底となったのです。

(2) 漢字の読み方として、「音読み」を受入れたこと

漢字の読みとして中国の音読みを受け入れたことが重要です。

中国には呉音、漢音、唐音の三種の音があります。呉音は仏教伝来時のものです。漢音は遣唐使で留学生が唐の都長安で聞いたものです。唐音は鎌倉から室町時代に禅僧が留学したときに聞いた音です。

しかし、唐音の「炭団（たどん）」、「炬燵（こたつ）」等多くは、そのものが最近では存在しないことで、使われなくなっている言葉です。

(3) 漢文訓読法を考案したこと

漢文にレ点、返り点をつけるという日本独自の訓読法をつくったことで、日本語に新たな広がりが生まれました。

(4) 万葉仮名、仮名（ひらがな、カタカナ）を考案したこと

仮名は漢字から作られましたが、当時もそれ以後も、男性は漢文を、女性はひらがな、カタカナを使っていました。それによって仮名が庶民にも広がっていくことに大きく貢献しました。

(5) 欧米の外来語から和製漢語を創造したこと

幕末から明治期に欧米から入った文章を多数翻訳してきました。その際中国の言葉を使って、二字熟語で西洋の言葉を翻訳しました。例えば「経済」、「社会」、「権利」等々があります。これも日本の言葉の構成を豊かにしました。

また、日清～日露戦争にかけて多くの中国人が留学生として来日しました。彼らは数多くの和製漢字を本国へ持ち帰ることになり、それらの単語は今でも数多く中国語の中で生きています。

(6) 日本独自の漢字の作成

日本は独自に漢字を作りました。「国字」といいます。例えば、「峠」、「峠」、「凧」等々で、約 2500 字あり、日本の言葉としての感性をより豊かにしました。

3 日本文化に息づく中国文化

～五節句、二十四節気、雑節、七十二候～

(参考資料 別紙)

(人間と自然関係)

日本人は自然に対して恐怖や畏敬を持った民族です。それが日本独自の「神道（しんとう）」という宗教をつくりだしました。

そのような自然に対する畏怖、畏敬が何に繋がるかという、そこに「神が宿る」とい考えを生みました。神が生まれると、神と人との間に不浄をさけるしきたりが生まれます。不浄とは厄災と穢れ（けがれ）、死や病いからの恐怖、「血」を穢れと考える等です。

こういう厄災、穢れを祓う、これは神の怒りに対しての祓い、厄災や穢れを浄めるという行事が日本の社会に生まれ、神に対してお供え物を共に食するという習慣となったのです。

(ハレとケ)

民俗学では「ハレの日」「ケの日」という表現を

使いますが、特別な行事（神に対する神事）を行う日がハレの日です。節句や成人式、七五三ですが、その時に着る服が晴れ着なのです。



（五節句）

日本ほど四季が明確にある国はありません。日本人は四季に対する思いが歴史的にも非常に強い。ですから、和歌というのには四季があるから生まれたと言っても過言ではありません。

その四季の変わり目は体に変調をきたす時でもあります。そこで季節が変わるとき必ず「澱（おり）」を祓うことになります。そういうものを祓って身を浄め、神に対してお供え物をする行事をしました。これが「節句」と呼ばれるもので、本来は「節供」と記します。

「節句」という行事は、中国から入ってきたものと、宮中で行われた行事、そして民間での農耕にかかわる季節の変わり目での行事が合体し、今の「節句」に繋がっていきました。それが江戸時代に今のような形として完成しました。

また、「節句」の文化を考えると、中国から入ってくる思想の中の陰陽・五行説、日本では「陰陽道（おんみょうどう）」といいますが深く関係していることも念頭においてください。

① 一月七日（人日の節句）

中国では人日（じんじつ）といい、人を大切にする日。その時は七種の野菜スープを食し、無病息災を祈りました。日本に入ると、当時若菜摘と合体し、「七草粥」となったのです。

これは、五穀豊穡を願うという収穫に向けての祈りでもありました。

実は五節句とは、農村社会における様々な収穫に関する行事の一環として行われてきたのです。

② 三月三日（ひな祭り）

中国では川べりで厄災を祓う行事を行い、文人は川池で酒盃を流し、順番に漢詩をつくる「曲水の宴」を催しました。

これが日本に入ると、紙で人形を作り、それ

で体の汚れとか穢れを祓い川に流すという行事になりました。

さらに宮中で人形を使ったひいな遊びが行われており、こうした風習と合体してひな祭りとなったのです。

これは別に「桃の節句」とも呼ばれます。桃は魔除け、厄除けの樹木といわれ、また健康と長寿を祝う花木ともいわれました。

③ 五月五日（端午の節句）

端午の端は初め、午はうまの日で、五月の最初のうまの日に行われる厄除けの行事です。一説によると、有名な文人政治家の屈原を悼む日に由来するといえます。

日本に伝わると、五月は一番季節が悪い「毒月」とか「悪月」とか呼ばれ、厄災を除く行事を行いました。

また、日本の農村では、田植えをする早乙女の禊（みそぎ）行事をしたので、本来は女性の節句でした。

④ 七月七日（七夕）

中国の乞巧奠（きっこうでん）に由来し、それは彦星と織姫の二人が会うことを祝うとともに、織姫にあやかり機織りが上達することを祈る行事でした。

日本の農村には、「棚機津女（たなばたつめ）」の禊がありました。それは選ばれた乙女が川辺の水屋で機を織り、反物を神棚に供え、神を迎えて一夜を過ごし、豊作を祈るというもの。「棚機津女」の言葉は「七夕」という形に置き換えられ、今日に至りました。

⑤ 九月九日（重陽の節句）

九（陽）が重なり凶となることに由来、季節の変わり目に体の毒気を祓うというもの。菊花酒を飲み、厄災や邪気を祓い無病息災、不老長寿を願うという行事となったのです。

（二十四節気：季節の変わり目の農耕指針）

二十四節気も中国から来たもので、1年を24の季節に分けたものです。

今の私たちは季節感を失いつつあります。この二十四節気を通して改めて季節を知るという習慣が根付けば良いと思っています。

「立春」、「立夏」、「立秋」、「立冬」は大きな季節の変わり目です。

立秋の次の節気は処暑、ようやく暑さがおさまり、吹く風にも涼しさが加わる時期といえます。次は「白露」、朝方に草木に露が滴る時期を指しま

す。「秋分」はお彼岸です。「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、季節感を最もよく表している言葉になります。

こういう季節の変わり目毎に、五節句だけでなく、二十四節気を作ることにより、さらに季節の深まりを感じることができます。

私たちが今失いかけている季節感を改めて、このような言葉を通じて考えてみるということが非常に大切なのだと思っています。日本の伝統文化のひとつとして、こういうことを意識しながら生活することが求められているのではないのでしょうか。

(七十二候、気象や動植物の変化を知らせる役割)

七十二候は1年間を72に分けているものです。1候は大体5日間ぐらいです。

例えば、10月9日の「寒露」の頃には3候あります。はじめは「鴻雁来(こうがんきたる)」といい、季節感を表す雁がやって来る頃です。次の候は「菊花開」日常の自然を反映した、菊の花が咲き始める時節を指します。

このように七十二候にはその時期に現れる季節の言葉が記されています。

(雑節：季節の変わり目をより深く読み取るために考えられた節気)

① 節分

皆さんは節分といえばと春だけの節分しかご存じないかもしれませんが、立春、立夏、立秋、立冬の前には必ず節分があります。今は春しか残っていませんが、季節の変わり目には必ず悪災を祓うという風習がありました。

② 土用

土用といえば夏のウナギしかご存じないかもしれませんが、これも春、夏、秋、冬にあるものです。土用の土は土の神様が支配する時土を休ませ、土いじりをしてはいけないという時期なのです。

③ 中元

中国の道教の行事(上元・中元・下元)の一つで、日本のような贈り物をするのではなく、罪を許してもらうということです。

4 中国文化の名残り

(1) 中国の暦法や古典に学ぶ

「昭和」「平成」「令和」をはじめ日本の年号はすべて中国の古典からきたものです。令和は万

葉集から取ったものですが、万葉集も基本的にはすべて漢字で書かれたものです。

(2) 中国来歴の植物、草木、果物

私たちのまわりのなじみ深いものは大抵中国からきたものです。

「胡瓜」「胡麻」「胡椒」は、シルクロードから渡ってきた食物で、その地域が「胡」と呼ばれたことに由来しています。

(3) 中国の古典をふまえた言葉

「啓発」、「完璧」、「四面楚歌」等は中国由来の熟語。例えば、「牛耳る」とは中国で諸侯が集まり盟約を結ぶ時、盟主が牛の耳を切り、滴る血を互いにすすりあい契りを確認したことによります。中国の言葉は実に日本社会に色々と深く根付いています。

(むすびにかえて 日本の現状)

いま、小学校から英語教育というのがあります。私は日本語教育をもっと徹底して行うべきだと思っています。少なくとも小学校時代は日本語の教育をきちんと学ぶべきだし、日本文化を学んでから、ヨーロッパの言語・文化を学べば良いのです。

また、私は大学教員をしておりましたが、ふりかえてみますと、大学の4年間は誰もが文学・経済から物理・医学・数学等の教養教育を幅広く学ぶことが必要だと思っています。現実の日本の教育は成果主義・実用主義になりすぎているのです。そういう意味で心の問題を含めて大きな課題に直面していると思います。

本日はどうもありがとうございました。

【お礼の言葉 出野上 副会長】

清水先生 貴重なご講演ありがとうございました。

日本も中国も同じ漢字を使う国として、生活の中で暦等々同じ文化の中にいるものと再確認したと思っており、欧州などより親しく出来る国かなとも思いました。

また、中国文化を通しての日本文化の重要性も確認させていただいたとも思っております。

本日はどうもありがとうございました。

また、建築会では月例会等を通じまして会員相互の懇親を深めて参りたいと思いますので、次回以降もご参加いただきますようお願いいたします。

(別紙)

2020年 二十四節気 七十二候の一覧

月の名前	節気	候	日付
睦月	小寒	初候 芹乃榮	2020/01/06
		次候 水泉動	2020/01/11
		末候 雉始雊	2020/01/16
	大寒	初候 款冬華	2020/01/20
		次候 水沢腹堅	2020/01/25
		末候 鶉始乳	2020/01/30
如月	立春	初候 東風解凍	2020/02/04
		次候 黃鸝鳴	2020/02/09
		末候 魚上氷	2020/02/14
	雨水	初候 土脉潤起	2020/02/19
		次候 露始澍	2020/02/24
		末候 草木萌動	2020/02/29
弥生	啓蟄	初候 蟄虫啓戸	2020/03/05
		次候 桃始笑	2020/03/10
		末候 菜虫化蝶	2020/03/15
	春分	初候 雀始巢	2020/03/20
		次候 桜始開	2020/03/25
		末候 雷乃発声	2020/03/30
卯月	清明	初候 玄鳥至	2020/04/04
		次候 鴻雁北	2020/04/09
		末候 虹始見	2020/04/14
	穀雨	初候 穀始生	2020/04/19
		次候 露止出苗	2020/04/25
		末候 牡丹華	2020/04/30
皐月	立夏	初候 蛙始鳴	2020/05/05
		次候 蚯蚓出	2020/05/10
		末候 竹笋生	2020/05/15
	小満	初候 蚕起食桑	2020/05/20
		次候 紅花榮	2020/05/26
		末候 麦秋至	2020/05/31
水無月	芒種	初候 螳螂生	2020/06/05
		次候 靡草為蜚	2020/06/10
		末候 梅子黄	2020/06/16
	夏至	初候 乃東枯	2020/06/21
		次候 菖蒲華	2020/06/26
		末候 半夏生	2020/07/01

文月	小暑	初候 温風至	2020/07/07
		次候 蓮始開	2020/07/12
		末候 鷹乃學習	2020/07/17
	大暑	初候 桐始結花	2020/07/22
		次候 土潤溽暑	2020/07/27
		末候 大雨時行	2020/08/02
葉月	立秋	初候 涼風至	2020/08/07
		次候 寒蟬鳴	2020/08/12
		末候 蒙霧升降	2020/08/17
	処暑	初候 綿柎開	2020/08/23
		次候 天地始闢	2020/08/28
		末候 禾乃登	2020/09/02
長月	白露	初候 草露白	2020/09/07
		次候 鶉始鳴	2020/09/12
		末候 玄鳥去	2020/09/17
	秋分	初候 雷乃収声	2020/09/22
		次候 蟄虫坏戸	2020/09/28
		末候 水始涸	2020/10/03
神無月	寒露	初候 鴻雁来	2020/10/08
		次候 菊花開	2020/10/13
		末候 蟋蟀在戸	2020/10/18
	霜降	初候 霜始降	2020/10/23
		次候 雲時施	2020/10/28
		末候 楓葉黄	2020/11/02
霜月	立冬	初候 山茶始開	2020/11/07
		次候 地始凍	2020/11/12
		末候 金盞香	2020/11/17
	小雪	初候 虹藏不見	2020/11/22
		次候 朔風払葉	2020/11/27
		末候 鶉始黄	2020/12/02
師走	大雪	初候 閉塞成冬	2020/12/07
		次候 鶉始穴	2020/12/11
		末候 鶉魚群	2020/12/16
	冬至	初候 乃東生	2020/12/21
		次候 蟄角解	2020/12/26
		末候 雪下出麦	2020/12/31

Ⅱ 会 員 寄 稿

『 杭瀬地域まちなか再生協議会 』

宮崎建設（株）

代表取締役社長 宮崎健一（当会理事）

少子高齢化、何度となく聞く言葉ですが、私が仕事をする地域でもご多分に漏れず、社会問題となっています。商店街は、たくさんの店舗が閉まったままの状態（726軒のうち298軒空き店舗）で買い物客も大型店に流れてしまい、今後どうにかしていかなければと商店主の方々は我慢を続けて営業をしています。

数年前にひよんなことから、地域の商店主や企業で構成する杭瀬アクションクラブの会議に参加することになり、具体的な事業に関りをもつことになりました。また4月より杭瀬地域まちなか再生協議会の役員に就任することになりました。まだ途中経過ですが、団体の紹介と活動報告を兼ねた寄稿をさせていただきます。



市場の様子

【まちなか再生事業とは？】

兵庫県の都市整備事業の一環で、空き店舗の増加等が進む商店街を「まちづくり」の観点から支援する事業です。具体的には、店舗集約などをきっかけに「まちのにぎわいづくりに寄与する施設」や「良質な集合住宅」等を整備することで「まちなかのにぎわいづくり」に取り組んでいこうとする事業です。杭瀬でも事業が始まりました。

[兵庫県／商店街の活性化とまちの再整備によるにぎわいのまちづくり事業 \(hyogo.lg.jp\)](http://hyogo.lg.jp)

【杭瀬地域まちなか再生協議会】

商店街店主、企業、地域コーディネーター、病院、金融機関で協議会を立ち上げ、アドバイザーや行政担当者と2020年から運営を始めています。具体的には、まちなか再生協議会等運営支援事業として、兵庫県下7カ所目となる区域指定を受けて、2025年までの5年間の事業計画＝杭瀬アクションプランを立て、活動をしています。

私自身、杭瀬で育ち、仕事もする中で、地域との関りを大切にするべきだと考えており、弊社会長から承継した経営理念の一つである「活私開公」自分を活かして、公（地域）へ貢献することとも一致し、自然な形で協議会へ参画することになりました。2025年に阪神タイガースの2軍球場施設移転が杭瀬南新町にある小田南公園に決まったようなので、できるだけ地域の改善に努めます。



小学校での授業

【杭瀬アクションクラブ】

協議会で立案した事業計画の実行に協力してくれるのが、杭瀬アクションクラブです。毎月、小学校の教室や金融機関の会議室で地域や仕事の近況報告会に30～40名ぐらいの方々が集います。先ほどの協議会が「協議体」という位置づけで、「活動体」となるのが、杭瀬アクションクラブです。

現在60名ぐらいの登録があり、100名を目指しています。商店街店主、地域住民、企業、PTA、県、市、地域活性化機構など所属の老若男女メンバーで構成されています。最近では、活動に興味をもった大学生の参加もあり、じわじわと増員しています。昨今の状況からリモートで報告会を行い、情報共有をしています。鮮魚店から「コロナでお客様が減ったわ」、テイクアウト弁当を始めた総菜屋さんは、「ウーバーイーツで大忙しやわ」病院からは「ワクチンやコロナ対策など」PTAからは「こどもたちの様子や事業報告」など多岐にわたる報告を行い、地域間のコミュニケーションを図っています。リモートになってからは、年配の方のアクセスが減っているので、できるだけ早く、対面できる従来の形に戻りたいです。

今までの活動は報告会が中心だったものを、アクションプラン実行のための調整会議に段々と変わりつつあります。また、地域の外部からの参加者にも力をいただいています。会社でもそうですが、物事を変えていけるのは、「よそ者、若者、ばか者」と言われたりします。地域内では出ないアイデアやノウハウを提供してもらい、活性化に役買ってもらっています。

【杭瀬アクションプラン】

「5つのスローガンと10のアクションを5年で」

チャレンジ

これまでになかった
新たな挑戦を
まちぐるみで
応援しよう

① 空き家ツアー ② 新規出店募集・支援

地元不動産会社の協力で空き家の紹介や出展支援を進めています。地元不動産会社の協力で一般に流通しない空き家や空き店舗情報を収集。地域に思いのある土地や建物所有者の理解を得ながら、リノベーションやシェアハウスなどを実現する物件をお宝物件として紹介しています。



オープン

新たな
プレイヤーが
参入できるよう
場を開こう

③ 活動拠点設置

市場空き店舗を「二号店」という古本屋兼活動拠点として開店。商店街利用者へトイレ開放し、日替わりで地域住民が店番をするという斬新な方法で運営しています。古本屋も5店舗共同運営で書籍が充実。一箱オーナーも現れています。



④ 地元アーティストの力でミューラルアート（壁画）や既存店舗のリニューアル看板を作成していきます。ミューラルアートは地域内の建物所有者との合意を得て、今年度中に実施を予定しています。

アソシエーション

ゆるやかに
連帯しながら
プロジェクトを
すすめよう

⑤ 杭瀬アクションクラブ・

既存の商店街組織をこえて、新たな取組を生み出し、助け合うような杭瀬アクションクラブの関係づくりは、コミュニティというよりは、アソシエーションです。出欠簿もないし、会員制度もなく、出入り自由という「ゆるやかな連帯」を体現する集まりです。



⑥ まちづくりオーダーシステム

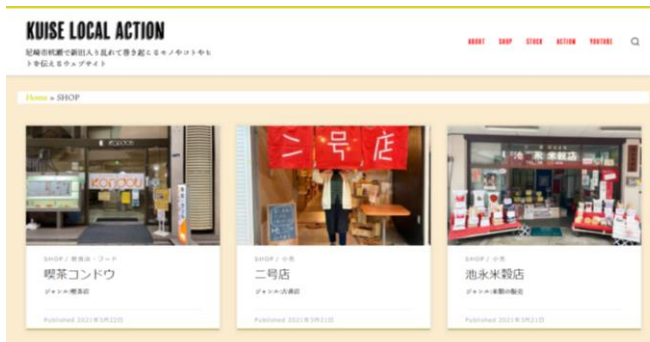
高齢や子育て世帯の買い物を支援する仕組みづくりとして、杭瀬地域内の宅配事業やワンストップでのオーダーシステムを研究します。物販だけでなくサービスや介護や医療についても暮らしを支える仕組みの構築に挑戦します。まずは、デジタルサーネージ設置からスタートです。

リノベ
ション

地域資源を
再評価し
新たな価値を
見つけて育てよう

⑦ プロモーションサイト

杭瀬で起こるさまざまなアクションを見ることが出来るプロモーションサイト「杭瀬ローカルアクション」を開設。ショップやイベント、活用したいデッドストックをクラブメンバーが紹介していきます。地元「杭瀬チャンネル」などのサイトとも連動し、杭瀬を盛り上げています。



[KUISE LOCAL ACTION – 尼崎市杭瀬で新旧入り乱れて巻き起こるモノやコトやヒトを伝えるウェブсайт \(kuiselocalaction.com\)](http://kuiselocalaction.com)

[杭瀬チャンネル - YouTube](https://www.youtube.com/channel/UC...)

⑧ 公園利活用

ゴミの不法投棄、鳥害など公園の現状はかならずしも良いものではありません。利用者と管理者の行政も困っている状態です。地元の力と行政の協力で解決できることもあるでしょう。

せっかくの広場や公共空間に再び人が集うことができるようなイベントや環境整備に挑戦します。用事がなくてもゆっくり過ごせるような「私たちの公園」を利用と管理の両面から考えていきます。

まずは、全国での成功事例を参考に、OUR PARK 事業として実証実験から始めていきます。



公園の様子

コ・
リビング

ともに
ごきげんに暮らし
働くことが
できる地域にしよう

⑨ こども食堂

市場食堂の店主の想いから、こども食堂が始まりました。こどもにとって、市場や商店街が家や学校以外の楽しい場所になるように取り組んでいます。地元での思い出と地域との関りが徐々に形成されています。「おっちゃん、今年受験やねん」と成長した子供たちからの報告を聞くことも増えて来たようです。コロナ禍で一時的に中止していますが、これからも継続の予定です。



⑩ 家守プロジェクト

良質な住宅や店舗などメンバーで借り上げて、新たなチャレンジャーへと転貸しながら、地域の暮らしや商売の拠点を増やしていく家守（やもり）プロジェクトを立ち上げ、協議会が地域の大家さんの役割を目指します。

【総括】

始まって1年が経ちましたが、コロナ禍であり、事業としてできたことは多くはありません。しかしながら、私自身と地域の方々との関係性が広がりました。結果として宮崎建設を知ってもらうことにも繋がったように思います。

自分たちの仕事をする場所、あるいは住む場所を自分たちで改善していくことが楽しめる状況に感謝したいです。業種によっては、厳しい環境に追い込まれている方々も増えてきているようなので、取り組みが何らかの手助けになるように今後も活動を続けていきます。

残り4年どのような結果になるかわかりませんが、役員の一員として地域のお役に立てるように、取り組んでいきます。

Ⅲ 令和3年度第3回理事会の開催



令和3年度第3回理事会が下記のとおり開催され、協議事項、報告事項等の審議が行われました。

日時：令和3年10月14日（木）14：00～15：00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

内容：・令和3年度事業について
・令和4年度事業計画について
・神戸市長選候補者の推薦について
・ホームページにおける公告について ほか

Ⅳ 第162回研修交流会の開催



10月21日（木）に城山ゴルフ倶楽部で第162回研修交流が12名の参加により開催されました。結果は次のとおりです。
(ダブルペリア方式)

優勝	前川 真一郎 氏
準優勝	政安 欣典 氏
3位	柚田 健一 氏
当月賞	矢間 照人 氏
ブービー賞	宮崎 健一 氏
ニアピン賞	立花 充 氏、政安 欣典 氏
ドラコン賞	前川 真一郎 氏、川端 宏幸 氏

V お知らせ

◎行事予定

1 第496回月例会

日時：令和3年11月11日（木）

13：00～14：00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

演題：「建築物、内装が意匠権の対象になりました」

講師：有古特許事務所

弁理士 市川 友啓 氏

2 兵庫県特別会員との懇談会

日時：令和3年12月9日（木）

16：00～17：30

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

講師：兵庫県県土整備部まちづくり局長
西谷 一盛 氏

内容：「兵庫県のまちづくり施策の現状と今後の動向について」

3 新春交流会

日時：令和4年1月12日（水）

17：00～18：30

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

なお、これら行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑みて、中止、延期等が想定されます。変更等のお知らせは郵便、メール等でご案内しますのでご了解ください。

事務局	：	吉本義幸、石井滝実子
電話	：	078-996-2851
FAX	：	078-996-2852
Email	：	archit-k@axel.ocn.ne.jp

安心をカタチに **兵庫県住宅再建 共済制度** **フェニックス共済**



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」



今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ！**

県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に		県内の住宅（借家含む）にお住まいの方に
住宅再建共済 年額 5,000円 で 再建、補修時等に 最大600万円 給付！ ※半壊（損害割合 20%）以上	一部損壊特約 年額 500円 で 補修時等に 25万円 給付！ ※損害割合10%以上20%未満	家財再建共済 単独加入 年額 1,500円 で 住宅とセット加入の場合 年額 1,000円 で 購入・修復時に 最大 50万円 給付！ ※床上浸水・半壊以上
	プラス	

※ 住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikin@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 ★加入申込書はダウンロードできます★



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局（簡易郵便局除く）にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です！